

《カンボジアニュースレター 第3号》 2016年6月後半

「あなたのうちのある者は昔の廃墟を建て直し、破れを繕う者、、、回復する者と呼ばれよう。」 (イザヤ58:12)

6月14日から16日までの伝道者研修会(ミニステリアルミーティング)の為に御祈りを感謝します。北米ミシガン教区のKentwood教会からディック兄(信徒)を同伴者として来訪されたチャック牧師(80歳)が3回に分けて講義をされましたが、ディック兄が私との再会を喜んで下さり、胸襟をひらいてカンボジアの教会の成長が5年に亘って援助してきたにも関わらず成長が停滞している事に大きな疑問を持っておられ、どうしたらよいと思いますか、と悩みを打ち明けて来られました。講義の内容を拝聴して感じたことを正直に話して、要はノウハウではなく、霊的経験と日々の献身のスピリットが生活の為の世の中の仕事に追われて救霊と教会建設に心が集中できなくなっているせいではないか、と見解をお返ししつつ、実は私もかなりの失望を覚えながらの2週間を過ごしていることとお話ししました。然し、遙々海を越えて毎年、伝道者を励まし訓練にと犠牲を払って応援しておられるケンウッド教会の情熱に心からの敬意と感謝をお伝えし、共に「ネバー・ギブアップ!」と硬い握手をもってお別れしました。



(80歳のチャック牧師の講義) (礼拝のメッセージ; 30分前に依頼!) (ディック兄とチャック師。V師)



(伝道者研修会出席者; 数名欠席) (V師の教会の信徒の関係者; 病気見舞い) (PPCのクメール教会員)

翌々日からVandy師はクロッティ県に10日間、別の米国からの教会成長の働きの通訳を依頼されて伝道旅行に出発、その間、奥様のテシー師は大学の教師として働いてご主人の伝道の為の収入の確保の為に働いておられ、3歳のデヴィッド君を幼稚園に送り、その足で大学に向かうという大変な日々を送りながら留守を守っておられました。私はと言うと、この10日間の留守中、不思議なように神様によって毎日送られてきた昔の神学生(現在フリーメソジストの伝道者)や親交のあったレアック兄(昔、彼が苦学中に何回か食事を求めて来られた方)が恩に感じて挨拶と現在の様子を証しするべく送られてきました。ビジネスをしながら伝道の働きを進めている彼の訪問により不思議なように神様が教会を思いがけない方向に導いて下さるのを経験しました。詳細は紙面に限りがあるので記録は省略しますが、この再開を通して長年関係が経たれていたグレッグ先生とレアック兄の間に協力牧師として一緒に伝道を進める事が決定、グレッグ先生はPPCの働きの前進の為にはクメールの伝道者となる協力牧師が与えら

れるよう祈り続けてこられましたので、主の御業の故に心から感謝してました。



(FM教会牧師ティヴェン師)



(平信徒伝道者レアック兄)



(グレッグ師とレシー夫人)

ティヴェン師(F.Methodist)は七つのコミュニティ(ヴィレッジと呼んでいます)に家の教会を七つ建て上げて、若者を中心とした伝道に励んでおられます。家庭をもつ経済的余裕がないので結婚もせずに日々各ヴィレッジの家の教会を訪問しながら聖書の学びをして信仰の建て挙げの為に労しておられます。



もう一つ前進した事をお知らせして御祈りを請わせて頂きます。ご主人である伝道者達の働きが余力強く前進していないために、一人の奥さんを除いて全牧師夫人が外で仕事をしてその収入で家庭を支えておられますのが現状ですが、既に5年が経ちました。徐々に婦人達の靈性にもひずみが見え始め、中には世的な方向に心が動き出していることも耳にして、主の導きを仰いでおりました。そして牧師夫人の為の靈的修養会を開くことにしました。

幸いにも(?)グレッグ宣教師の奥さん(グレッグと同様シニップの卒業生)が失業中で自由の身であり彼女の賜物はこうしたイベントの計画を立てる面で秀でていたとの事、早速、翌週、来訪をお願いしてプログラムや予算の組み立て、そのほかのプランを立てるお手伝いをお願いしました。主がこれらの計画を通して真の靈的改革が一人一人の霊の中になされますように、御祈り下さい。帰国前の最後の週に持たれることですので、その後の靈的成長やフォローアップの時が無いことが気になる所ですが、レシー夫人の話によると、来年の2月に米国からのチームが来訪、その時に牧師夫人達の為のリトリートを予定しておられる、との事ですので、内容的にどのようなリトリートになるのか分かりませんが、一応、そのような計画があるとの事を伺い、主の御手にお委ねすることにして、今回の第一回目の靈的リトリートがキックオフとして用いられますようにと御祈りを頂きたくご報告とさせていただきます。

さて、これを記録中にもう一つ、主のお働きが進められる動きを拝しました。このレポートが届く頃、その結果の一つとして、プノンペン在住の牧師達と祈り会をもつように、と話しがスタートしました。

これもティーヴェン牧師とレアック兄との接点が基点としてカンボジアのリバイバルの為に祈りが必要という話しから私の心に留まり続け、祈り始めたのですが、今朝、ヴァンディ師が来られて子供さんが幼稚園できちんと教育されていない事、その結果が家庭に、彼の奉仕に障害を来たしていることの相談から、究極的に経済的必要性の問題の為、彼の信仰と靈的面の必要の為、より頼む御方は神様のみ、という事に話が導かれ、彼の為に祈っていた御霊のお働きが始められていることを感じ、最後に主の御前に碎かれる事をお勧めし、祈りの時を持って終わりました。その後で、レアック兄、ティヴェン牧師をはじめプノンペン市在住の伝道者達との心をつなげた祈り会をもつ提案をし、同意されました。主が祈りに答えてくださったことを心から感謝しました。実現をみるまで御祈り下さい。